

2024（令和 6）年度  
学 校 関 係 者 評 価 報 告 書

学校法人 京都 YMCA 学園

舞鶴 YMCA 国際福祉専門学校

「専修学校における学校評価ガイドライン」を踏まえた評価項目に沿って実施した自己評価について、学校関係者評価委員会にて委員より意見を徴収した。

◆学校関係者委員

| 氏 名  | 所 属                        |
|------|----------------------------|
| 仲川真広 | 社会福祉法人 舞鶴市社会福祉協議会 事務局長     |
| 吉岡達也 | 聖ヨゼフ学園 日星高等学校 教頭           |
| 田向優香 | 舞鶴 YMCA 国際福祉専門学校 介護福祉学科卒業生 |

◆評価項目

- ①教育理念・目標
- ②学校運営
- ③教育活動
- ④学修成果
- ⑤学生支援
- ⑥教育環境
- ⑦学生の受入れ募集
- ⑧財務
- ⑨法令等の遵守
- ⑩社会貢献・地域貢献

(改善方策等を踏まえた議論)

①修学成果

卒業生支援の一環として、卒業後 6 か月時点で定着状況に関するアンケートを実施しているが、それ以降の継続的な追跡調査が行われていないのが現状である。施設からの情報によると、奨学金を利用した卒業生が返済完了後に離職するケースが目立っており、これに対する対応策として、同窓生が学校に集まり交流する機会を設けることで、離職防止につなげていく。

高校等との連携によるキャリア教育・就業教育の取り組みとして、地元高等学校のボランティア部や探究学習などの福祉に関する活動に本校教員や学生が積極的に関わり、連携を深めることを検討する。

⑦学生の受入れ募集

高校との連携を強化し、キャリア教育・就業教育の取り組みを推進するとともに、地域

の高校生への周知をさらに徹底する。また、Uターン希望者などの受け入れを丁寧に行い、介護福祉士資格が職場で有利に働くことを積極的に発信していく。

#### ⑧財務

教育活動収支の推移を分析し、財政基盤の更なる安定化に向け、学生数確保に加え、付帯事業の継続・拡大も視野に入れていく。

#### ◆総評

評価項目について、総体的に高評価である。

福祉業界を取り巻く厳しい環境の中で、社会や価値観、そして福祉の構造そのものを変革するのは非常に困難である。しかし、喫緊の課題となっている高齢者福祉の現状を「自分自身の問題」として捉え、地域にある養成校の意義を理解する関係者を増やすこと、そして安定的に学生を確保していくことが大きな課題である。

引き続き協議・検討を重ねていく。

以上